

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立稲葉特別支援学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育活動を推進し、能力や可能性を伸ばし、社会自立に必要な力を育成する。
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	【グラデュエーション・ポリシー】 ○なかよく（コミュニケーション）：自他の心情や命を大切に作る心を持ち、 ○あかるく（意欲）：意欲をもって物事に向かう力を持ち、 ○たくましく（心身）：忍耐力と健やかな体をもつ児童生徒
ありたい教職員の姿	○児童生徒への深い愛情と確かな人権感覚をもち、率先して取り組む活力ある教員 ○専門性の向上と自己研鑽に努め、仲間と新しい教育実践に挑戦する教員 ○組織の課題を発見し、新たな伝統・システム作りに取り組む創造性のある教員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈児童生徒・保護者〉 安心・安全な学習環境をベースとして、保護者との連携・相談体制を充実させるとともに、将来の社会参画に向けた生活指導・学習指導・キャリア教育を学校に期待している。 ※令和5年度保護者アンケートより 生活指導の充実 82.1% 安心安全に学べる場 59.5% 保護者との連携 58.3% 進路指導・キャリア教育の充実 52.4% 相談体制の充実 50.0% 学習指導の充実 48.8%	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	
	[小中学校] [地域] 交流及び共同学習 93% 87% 教育相談 96% 79% 学校公開 93% 87% 地域行事への参加 86% 81% 合同避難訓練 75% 73% ※令和5年学校所在中学校区の教職員及び保護者等へのアンケートの肯定的回答割合より	連携する相手への要望・期待 〈関係機関〉 特別支援教育の充実 80% 情報の共有 54% 交流及び共同学習の推進 18% 〈地域〉 学校教育への理解・協力 78% 参画できる場の提供 48% 一人ひとりのニーズや課題の共有 26% ※令和5年度教職員アンケート結果より
(3)前年度の学校関係者評価など	○コロナ禍以降の社会体験や活動について充実した教育を進めてほしい。 ○様々な研修を通して教職員の専門性を高めてほしい。 ○卒業後の社会自立に向け、生活指導や安全指導に取り組んでほしい。 ○教職員の時間外労働縮減や定時退校の更なる取り組みを行ってほしい。	
(4)現状と課題	教育活動	○社会に開かれた教育課程を展開し、社会自立にも繋がる体験活動の充実や地域・関係機関と連携した教育活動を進めていく。 ○ICT やデジタルデバイスの実践を深化させ、多様な生徒に対応した効果的な教育方法の開発を行う。 ○12年間の学びの連続性のある目標設定により日々の授業の充実を図る。 ○児童生徒の安全や健康に対する指導については、今後も継続した取り組みを行う。
	学校運営等	○専門性を携えた質の高い教育実践の組織的な継承を進めていくための、研修計画と組織的位置づけを実施する。 ○「チーム稲葉」として、児童生徒への支援等について多様な職種が協力できる体制づくりを構築する。 ○「安心安全な学校づくり」に向け組織・施設の危機対応能力を向上させる。 ○働き方改革やジェンダーギャップの解消に向け、教職員の意識の醸成を進める

教育活動	【カリキュラム・ポリシー】 ①生活を豊かにするために必要な知識・技能を身につけるとともに、それらを統合し、よりよく問題解決をする力を身につける。 ②人とのかかわりを通して、本人の意思や願いを表明・発信する豊かな表現力や共感する態度を身につける。 ③自立と社会参加を目指して、主体的に生活に向かう力を身につける。
学校運営等	A) 障がいの多様化、学習のデジタル化を踏まえた教職員一人ひとりの専門性を向上させる。 B) 誰一人取り残さない教育の実現に向けたセンター的機能と安心・安全のための切れ目のない支援の充実に向けたネットワークを形成する。 C) 誰もが自信と誇りを持ち業務にあたれる「チーム稲葉」としての体制・組織づくりを進める。

(1)教育活動 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
①生活を豊かにするために必要な知識・技能を身につけるとともに、それらを統合し、よりよく問題解決をする力を身につける。	小学部から高等部までの12年間を見据え、各教科やあわせた指導の目標を明確にし、評価に基づく日々の授業の充実を図る。 【活動指標】 (小学部) ・児童の課題や目標、授業の評価を共有し、児童が主体的に学びに向かうために支援方法や授業内容を工夫する。 (中学部) ・個別の指導計画やキャリアパスポートを基に、保護者と教員間で生徒の課題や目標、評価を確認し教育活動を行う。 ・活動の見通しを持たせ、評価し振り返りをしながら、現在の生活から将来がイメージできるよう指導する。 (高等部) ・生徒の課題や目標を確認しながら、授業計画を立てる。 ・学校生活のきまりやルールを守りながら、社会生活を意識した言動が身につくよう指導する。 (教務部) ・各教科や合わせた指導の年間指導計画を踏まえ、目標に合わせた授業を行う。 (進路・支援部) ・実態を把握した上で、指導目標を設定し日々の授業に生かす。 【成果指標】 ・教育活動・支援に満足している保護者の割合80%以上	小・中・高の系統性を考え各教科の年間指導計画を作成し、それをもとに個別の指導計画を設定した。目標に合わせた授業内容や支援方法を検討し実践を行った。また、保護者や教員間、関係機関と情報共有をすることで適切な実態把握に努めた。 ・教育活動・支援に満足している保護者の割合98.9%	◎
②人とのかわりを通して、本人の	社会に開かれた教育課程を展開し、具体的な指導や豊かな社会体験により、自尊感情を育むとともに、社会性を身につけさせる。	校外学習等の社会体験を通じルールやマナーを学んだり、児童生徒会	

意思や願いを表明・発信する豊かな表現力や共感する態度を身につける。	【活動指標】 (小学部) ・校外学習やそれに伴う授業を通して、社会性が身につくよう指導する。 ・絵カードやICT機器を活用し、要求や思い、応答などの気持ちを伝えられるようにする。 (中学部) ・校外学習やそれに伴う授業、日常生活において、挨拶の大切さや人との関わり、社会性が身につくよう指導をする。 ・自分の思いを伝えることができる力を身につけられる指導をする。 (高等部) ・校内実習や現場実習を通して、実習に取り組む姿勢や、その後の感謝等を表現する力が身につくような機会を設けたり、文章作成の指導を行ったりする。 (生活部) ・学部行事などを通して、児童生徒会活動を充実し、発表する場を設ける。 【成果指標】 ・学校での学びで「達成感」を感じている児童生徒の割合 80%以上 ・自分から挨拶ができた児童生徒 小50%、中70%、高80%以上	活動として学校祭や全校集会等での司会進行の経験をしたりする等、社会性やコミュニケーションの幅を広げることができた。個に応じた方法で、自分の意思や願いを伝えられる児童生徒も増えてきた。 ・学校での学びで「達成感」を感じている児童生徒84% ・自分から挨拶ができた児童生徒 小学部58%、中学部76%、高等部80%	
③自立と社会参加を目指して、主体的に生活に向かう力を身につける。	児童生徒の「生きる力」の基盤となる体力作りを推進するとともに、ICT機器も活用しながら、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力等の社会に参画する力を育む。 【活動指標】 (小学部) ・からだタイムのリトミックや校内・校外歩行などに取り組み、基礎体力を養う。 ・ICT機器や視覚支援を活用し、ルールやスケジュールを示し、見通しをもって集団活動や行事等に参加する経験を積ませる。 (中学部) ・1日のリズムを整え、体力を向上することを目的とし、暑さ指数(WBGT)に留意し朝の運動を行う。 ・ICT機器を活用できる機会を保障し、初歩的な操作ができるよう指導する。 (高等部) ・いなば園周を毎日3周走る。 ・ICT機器を活用して、デジタル環境への理解が深まる指導する。 (進路・支援部)	小学部のリトミックや校内・校外歩行、中学部の朝の運動、高等部の持久走と、全ての学部で体力作りに取り組むことができた。また、ICT機器や視覚支援を活用したり、外部講師による授業を行ったりする等の社会参加につながる学習を行うことができた。卒業後を見据え、高等部3年生の関係機関との連携会議も2回実施した。	

	・関係機関との情報共有を行う。 ・高等部卒業前に、移行支援会議を開催する。 (生活部) ・SNSの正しい使い方を指導し、コミュニケーション手段を増やす。 ・各学部で食に関する授業を行う。 ・各学部の授業などで保健指導を行う。 ・健康相談を実施し、校医や専門機関との連携をはかり、個々に応じた問題解決に努める。 【成果指標】 ・「運動が楽しい。」と回答する児童生徒の割合 70%以上 ・就職を希望する生徒の就職率 100%	・「運動が楽しい」と回答する児童生徒 83% ・一般就労を希望する生徒の就職率 100%	
改善課題			
・児童生徒についてより適切な実態把握を行うとともに、学習指導要領をもとに小・中・高の系統性を考えた各教科等の年間指導計画を作成し、個に応じた授業内容や支援方法を検討し実践していく。 ・日常の授業に加え、校外学習等の社会体験活動、児童生徒会活動や卒業後を見据えた各種実習等の経験を通して、社会性を身に付け、学びの般化につながるような学習内容を設定していく。 ・あいさつ等のコミュニケーション力や体力向上につながる授業、ICTを活用した授業等により自立につながる力の向上を目指して取り組む。			

(2)学校運営等

「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
A) 障がいの多様化、学習のデジタル化を踏まえた教職員一人ひとりの専門性を向上させる。	・学校教育の基本である「授業づくり」のスキルを全教員で向上させる。 ・「信頼される学校であるための行動計画」に基づきコンプライアンス意識を高める。 【活動指標】 (教務部) ・障がいの多様化、学習のデジタル化に応じた教育環境を整えるため、一人一台情報端末やパソコン室などを整備する。 (進路・支援部) ・職員や保護者対象の研修会や事業所見学会を開催する。 (人権・研修部) ・専門性向上と授業改善を目的とした校内研修を行う。 【成果指標】 ・学校の危機管理・防災対策への保護者満足度 70%以上 ・専門性の向上のための研修を受講した教員 100% ・コンプライアンスに関する目標を達成した教職員 100%	一人一台の情報端末等の学習環境を活用し、「授業づくり」のスキルの向上に向けた研修や進路・支援に関わる公開講座、施設見学会等を行った。専門性向上と授業改善を目的とした全体研修は、年間を通じ全9回行った。 ・危機管理・防災対策への保護者満足度 89% ・専門性の向上のための研修を受講した教員 88% ・コンプライアンスに関する目標を達成した教職員は 100%	

B) 誰一人取り残さない教育の実現に向けたセンター的機能と安心・安全のための切れ目のない支援の充実に向けたネットワークを形成する。	・ 個々の課題等に応じた支援会議の開催等による児童生徒の校内支援体制の充実とともに、小・中・高等学校への積極的な情報発信・提供によりセンター的機能の充実を図る。 ・ より実効性のある危機管理マニュアルの整備、防災・安全対策等を行う。 【活動指標】 (危機管理・総務部) ・ 危機管理マニュアルについて、計画的に見直し、より実効性のあるものにしていく。 ・ 避難訓練について、より実際の場面に近い状態での訓練を行う。 ・ 不審者対応について、専門家を招いて話を聞き、実際の場面での対応方法についてより多くの教職員に周知を図る。 (進路・支援部) ・ 地域支援講座を実施する。 ・ 教育支援事業案内を配付する。 ・ 支援会議体制の充実を図る。 ・ 福祉や特別支援教育に関わる情報「INABA TIMES」を発行する。 【成果指標】 ・ 福祉や特別支援教育に関わる情報「INABA TIMES」の発行 年間3回 ・ 欠席日数 30 日以上の児童生徒に関する支援会議開催率 100%	年間を通して危機管理マニュアルの見直しと改定を行った。避難訓練も、より現実的な設定で年間3回行い、新たにスクールバス下校時避難訓練も実施した。不審者対応訓練については実施できなかった。次年度も、新たな視点から防災対策を検討し様々な取り組みを計画していく。地域支援では、小・中学校、県立高校・特別支援学校教員を対象とした公開講座と合わせて、教材の紹介や個別相談を行った。また、欠席日数 30 日以上全ての児童生徒に対して校内支援会議を開催し、支援体制を充実させることができた。 ・ 福祉や特別支援教育に関わる情報「INABA TIMES」を3回発行した。 ・ 欠席日数 30 日以上の児童生徒に関する支援会議の開催率 100%	◎
C) 誰もが自信と誇りを持ち業務にあたれる「チーム稲葉」としての体制・組織づくりを進める。	・ 教職員一人ひとりが持てる力を発揮するとともに、不祥事を根絶することにより、活力ある「チーム稲葉」としての組織づくりを進める。 ・ ICT の有効活用と業務の思い切った見直しを進めることにより、学校の働き方改革を推進する。 【活動指標】 ・ 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・ 計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・ 放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 80%以上 【成果指標】 ・ 一人当たりの月平均時間外労働時間 10 時間以下 ・ 時間外労働が月 45 時間を超える延べ人数 0 人 ・ 時間外労働が年 360 時間を超える人数 0 人	チーム稲葉としての組織づくりのために、各部・各分掌で業務内容の見直しを行った。ICT の活用については、新しいシステムが導入されたことで、今後働き方改革につながることを期待できる。 ・ 設定した日に定時退校ができた職員の割合 77.8% ・ 休養日を設定できた部活動の割合 100% ・ 60 分以内に終了した会議の割合 74.7% 半期（4～12 月実績） ・ 一人当たりの月平均時間外労働時間 7.0 時間 ・ 月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 9 人 ・ 年 360 時間を超える時間外労働者の人数 0 人	※

	・一人当たりの年間休暇取得日数 4月～12月 10日以上	(参考 180時間超 8人 *12月現在) ・一人当たりの年間休 暇取得日数 13日	
改善課題			
・障がいの多様化に対応できるような授業力や知識、ICT 機器活用スキルの向上を目指すことにより、適切な校内支援体制や充実した地域支援につなげる。 ・互いのいのちを大切にすることを学べるような活動や、新たな視点での防災・安全対策や避難訓練を実施し、より幅広い視点からいのちを守るための取り組みを行う。 ・教職員としてのコンプライアンス意識を高めるとともに、障がいのある児童生徒の人権を守るための新たな取り組みを考え実施する。 ・働き方改革につながるよう、各部・各分掌で業務内容や体制を見直し、教職員一人ひとりが持てる力を発揮しやすい環境をつくり、チーム稲葉の組織力を高める。			

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	・防災・安全対策はいのちにかかわる大切な事であり、指定避難場所までの避難経路や、災害備蓄品の数量について確認を行う等、細部まで考えてより一層充実した対策を講じた方がよい。また、地域及び近隣の施設や事業所との連携も強化していけるとよい。 ・人権について、本校の児童生徒は問題の当事者であり、校内にとどまるのではなく、地域社会に向けて啓発するような取り組みを考えていかなければならない。 ・児童生徒の人生が豊かになるような進路指導やアドバイスをしてもらいたい。 ・地域にとって特別支援学校のセンター的機能の役割は重要であり、地域の学校との交流及び共同学習も継続して取り組んでほしい。
-----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	・児童生徒のよりの確な実態把握に基づき、個々の教育的ニーズに応じた個別の指導計画を作成し、授業内容や支援方法の検討を行い、実践に生かす。 ・校外学習や実習等の社会体験の機会を増やす等、社会性を養うことにつながるような活動を取り入れ、実践的なスキルを習得する機会を提供する。 ・あいさつやグループ活動を通じたコミュニケーション力の向上、また、リトミックや朝の運動等を継続的に実施し、体力の向上を促進する。 ・自立活動における ICT の活用を進め、障がい特性の補完につながるような授業を考えていく。
学校運営について の改善策	・教員の研修を一層充実させ、障がいの多様化に対応できるような授業力と支援に必要な知識、ICT 機器活用のスキルを向上させる。 ・関係機関との連携を強化し、校内支援体制をより充実させる。 ・地域の防災や安全に関する機関と連携し、幅広い視点からいのちを守るための取り組みを推進する。 ・センター的機能の持つ役割を適切に果たすと共に、交流及び共同学習の充実を図り、特別支援教育及び人権教育の両側面から地域に根差した学校を目指す。 ・各学部や各分掌で業務内容を再評価し効率化を図る。また、役割分担を明確化し、環境を整え、学校全体の組織力を高める。